

(環境) 山中小学校 4年  
ホタルを調べる学習を通して、  
山中学区について考える子どもの育成  
～「ホタル博士になろう」の実践を通して～

6月～9月(20時間)

1 はじめに

山中学区は、緑豊かな自然に囲まれている。学区には山中八幡宮があり、クスノキやヒメハルゼミなど岡崎市の天然記念物に指定されているものもある。また、山綱川が学区を東西に流れており、この川にはホタルが生息している。ホタルを調べる学習を通して、山中小学区が自然豊かな学区であることに気づき、環境の保護に取り組む子どもになって欲しいと考えた。

2 「ホタル博士になろう」の実践

(1) 実践の工夫・手だて

- ① ホタルを見る会を開き、ホタルへの興味や関心を高める。
- ② インターネットを使ってホタルについて調べ、分かったことをまとめたり、ゲストティーチャーを呼んで、ホタルの育て方の話を聞いたりする時間を設け、ホタルについての知識を深める。
- ③ 調べたことを新聞、本、パンフレットの形にしてまとめ、敬老会や授業参観で発表したり、掲示したりして情報を発信、共有する。

(2) 実践と考察

① ホタルについて知っていることを発表しよう

子どもたちは山中学区を流れる山綱川に、毎年ホタルが現れることを知っている。そこで、今、ホタルについて知っていることを発表し合う機会を設けた。この話し合いの中で、「おしりが光るのはオスとメスが求愛しているんだ。」「きれいな川にすむ、タニシみたいなやつをえさにしています」など、多くの意見を出し合った。これらの発言から、子どもたちはホタルについてよく知っていることがわかった。

② ホタルを見る会～山綱川に生息するホタルを見よう～

保護者の方にも協力していただき、山綱川に生息するホタルを見る会を設けた。多くの子どもたちが、興味をもってホタルを見る会に参加した。多くのホタルを見ることはできなかったが、ホタルの光る姿を見て「きれい」「すごい」などの声があがった。学年の友達と見ることができ実際に自分の目で確かめることができたので、子どもたちにとってとても良い経験となった。

③ ホタルについて調べよう

調べ学習に入る前に、本物のホタルの卵を観察した。水草に着いていて、丸くて小さい形をしていた。初めて見るホタルの卵に子どもたちはとても興味を持った。

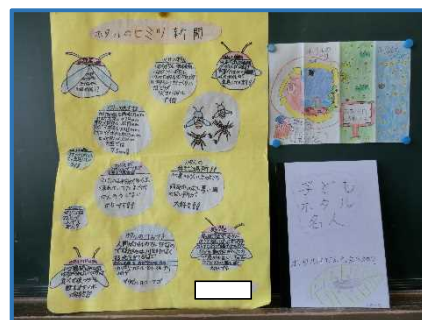
インターネットを使い、ホタルについて調べていくと、ホタルが生きることのできる川の環境やホタルの天敵について知ることができた。ホタルは多くの天敵がおり、私たち人間もホタルにとっては天敵であると書いてあった。ホタルを鑑賞をする際のマナーが悪いとホタルにも影響が出てしまうことがわかった。

#### ④ ゲストティーチャーに話を聞こう

本校に、ホタルを幼虫から育てている先生がいる。この先生に、ホタルの成虫のことやホタルの幼虫の話をしていただいた。実際にホタルの幼虫を見せていただいたり、ホタルの餌である「カワニナ」の育て方やどのようにホタルに与えているかを教えていただいたりした。インターネットや本からでは感じ取ることのできない実物を見ることができ、子どもたちは先生の話を一息懸命聞き、興味関心を高めた。

#### ⑤ 3つのまとめ方を知り、調べたことをまとめよう

インターネットで調べたり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして、これまでの調べてきたことをまとめた。今回は子どもたちに3つのまとめ方（新聞、本、パンフレット）を紹介した。それぞれの良い面、悪い面を説明した後、まとめ方を選択させた。新聞は文字の大きさを大きく



子どもたちがまとめた、新聞、本、パンフレット

できるので見やすくまとめることができる。本は調べたことをより多くまとめることができる。パンフレットはコピーをして複数枚作ることができ、作ったものを渡すことができる。今回は新聞の形にしてまとめる子どもが多かった。

#### ⑥ おじいちゃん、おばあちゃん、お家の人に発表しよう

本校では、敬老会に地域のおじいちゃん、おばあちゃんを招いて、全校児童と交流する機会を設けている。

4年生は一人一人がホタルについて調べてきた成果を発表した。この発表会のために学年で発表の練習をしてきた。最初は時間が余ったり、足りなかつたりする子どもたちも練習をするにつれて時間通りに発表することができるようになった。普段交流することのないお年寄りの方たちに、学習の成果を発表できたことはとても良い体験となった。



指示棒を使い、調べたことを発表する児童

その後、授業参観を利用して、お家の人に向けてホタルの発表会を行った。

#### ⑦ 今までの活動を振り返ろう

本単元を終えて、学習全体の感想や今後心がけたいことを振り返る時間を設けた。「これから川にごみがあったら拾って、夜になるとホタルがたくさんすめるようにして、人間は全員がてきではないということをホタルに知ってもらいたいです」と感想を書く子どもがいた。わたしたちが環境を破壊することで、ホタルのすむ世界を奪ってしまうことに子どもは気づいた。ホタルを守ることも、学区の自然を守ることにつながることに気づき、子どもたちなりに「ポイ捨てをしない」「川のごみ拾いをする」など一人一人が取り組むことのできる活動を考えることができた。

### 3 実践を振り返って

山綱川に生息するホタルを調べるなかで、本校の学区には緑豊かな場所が残っていることを再確認することができた。環境学習「作戦Rでごみへらせ」の導入後に不法投棄で生き物が死んでしまっている現状を知ったとき、「これまで調べてきたホタルの学習はここに

繋がっているんだ」とつぶやいた子どもがいた。今後も地域の自然を愛し、地域に関心を持ち、地域を大切にできる子どもたちであってほしい。